

令和7年度 第3回学校運営協議会（コミュニティスクール） 報告

1. 日 時：令和8年2月18日（水） 午前9時30分から11時30分まで
2. 場 所：静岡県立東部特別支援学校伊豆高原分校
3. 出席者：島田 晴夫 様（元伊東市立中学校教諭）
荻野 耕介 様（伊豆介護センター）
田畑まどか様（特定非営利活動法人 絆翔 代表）
望月 正仁様（NPO 法人伊豆高原 BASE 理事長）
辻 恵 様（多胎育児支援サークルふくまめピアサポーター代表）
大川 勝弘様（伊豆伊東高等学校 PTA 会長）
大川 直子 様（本校 PTA 会長）

学校：佐々木雅則（校長）、三田 薫子（教頭）、小松 真理（高等部主事）、
佐藤 弘康（教務課長）

4. 内 容 司会（教頭） 記録（佐藤）

(1)開会

(2)校長あいさつ

(3)学校経営評価について質疑応答および御意見

①安全・安心で健康に過ごせるための知識技能の獲得

委員：移転後3年目の今年度は伊豆伊東高校と合同避難訓練を初めて1回行ったとのことだが、合同訓練は大切だと思う。今後は回数は増えるのか。

学校：来年度は職員の緊急時対応訓練等も一緒に実施できるとよいことを担当者間で話しているので合同訓練は増やしていく方向。

委員：高齢者のデイサービスなどでは、雪の際などに営業を休むと、食事が目的の利用者の状況が心配になるという話を聞く。特別支援学校の生徒さんの場合、災害時に保護者が不在で、生徒さんが一人で様子を見なければならぬような状況は想定されているのか。

学校：学校側としては、保護者が（生徒を）一人にはしない状況であると把握しているので、心配はしていないが、災害時の引き渡しに関しては、自宅に誰もいない状態であれば、決して一人では帰さないというルールを徹底し、必ず直接引き渡しを行う形をとっている。

委員：緊急時の連絡や、保護者がどうしても対応できない場合の体制はどうなっているか？

学校：本校では、保護者へ連絡を流すと同時に、登録されている事業所にも同時に連絡が行く仕組みになっている。急な休校の際、家庭ですぐに対応できず預け先が必要になる場合など、周囲の配慮やサポートが必要な場面に、対応してもらいやすいような仕組みをとっている。

②互いを認め合い人権を尊重した教育の推進

委員：今年から始まった生徒が話したい教員を指名し、10～15分程度話をする「ほっこりエールタイム」はいい取組だと思う。何回行ったのか。

教頭：前期の生徒の様子から、集団ではなく、1対1で先生と話せる時間があればストレスを感じている生徒の思いを早めに把握できるのではという教員間からの提案で、後期になってから1回実施した。生徒の思いを把握できる効果的な取組だったので、来年度も継続していく方向となっている

委員：優しい先生に指名が偏る懸念はどうか。

学校：最初は心配したが、実際には生徒たちが自分の話したい話題に合わせて、しっかりと先生を選んでいるという印象だった。

委員：「人権」の定義の難しさを感じる。ある研修会で講師の方が「虐待とは、相手が嫌がる何かをすることだ」と定義されていて、非常に衝撃を受けた。「嫌がる何か」がすべて虐待やいじめになるとすると、教育現場はかなり難しくなる。学校は、たとえ「やりたくない」と思うことでも、社会に出るために取り組まなければならない場面がある場所であると考えている。

学校：いじめや虐待は「相手の主観によって決まる」という点が、指導する側としては非常に苦心するところだが、本人のやる気を引き出せるよう努力を続けていくしかないと思っている。

学校：本校は来年から2年間、人権教育の研究指定を受けることになった。学校での人権教育の年間指導計画を整理し、よりよい授業実践を重ねていく予定。

③生徒が主体的に学べる授業づくり

委員：作業の取り組みを見ていると、自分の課題がどこなのが分かっている、どう取り組めばいいのかを考えて取り組む姿が見られて成長を感じた。さらに「〇〇さんは、こんなところができるようになった」と、自分以外のことを話すようになってきている。

④自分らしく生きるための自立と社会参加を目指した進路指導

委員：地元の多くの企業は「法定雇用率」の適用外である一方で、障害者雇用に対して「したくない」わけではなく、単に「どう対応したらいいのか、何から始めればいいのか分からない」と戸惑っている。まずは行政（市）が自ら雇用率を達成して手本を示した上で、企業に情報を提供していくべき。

学校：法定雇用率は今後2.5%から2.7%へと段階的に引き上げられる予定で、静岡県全体で見ると、特別支援学校高等部からの就職率は全国トップクラスだが、地域によって大きな差がある。

学校：職場開拓員が企業を回り、情報提供をいくつも受けているが、生徒の就労に大きな壁となっているのが「通勤」の問題である。公共交通機関を利用して通える立地の企業でないと、就職は難しい。地方では仕事があっても通えないという理由で、地元を離れて沼津などの都市部へ出て行かざるを得ない生徒も少なくない。

⑤自分の課題、目標に沿った研修の実施

委員：障害者雇用で10年以上勤めている職員について、徐々に業務をステップアップでき、素晴らしいと期待していたが、実は苦手な業務だったようで急に休むようになってしまった。「ステップアップし続けることが必ずしも良いわけではない」と痛感した。職員の希望を聞きながら人事案を考えるようにはしているが、やはり本人が伝えてくれないと分からないという難しさがある。

⑥途切れのない支援体制の構築

学校：欠席の多い生徒については、校内ケース会議や外部機関との連携、定期的な情報共有を行っている。

⑦情報共有と情報発信

委員：高等部への入学に向けた進路相談は具体的にはどのようなスケジュールや対象で実施されているか
学校：まず6月に、こちらの学校を希望するすべての生徒さんを対象とした全体的な体験実習を行う。その後、特に不登校傾向にあり、中学校になかなか通えていなかった生徒については、「実際に（高校に）通い続けることができるか」を確認するため、秋に3日間続けて実習を受けてもらった。

委員：進路相談の参加者の本校への理解が不十分な点について、具体的にどのような相談が不十分なのか
学校：本校は知的特別支援学校なので、入学には知的障害があることが条件となる。支援学級に在籍していれば（特別支援学校に）入れると思っている方もいるが、法令（学校教育法施行規則22条の3）で

定められた知的障害の基準に該当するかどうか重要。しかし、中学校の普通学級に在籍している生徒からも入学希望があるのが現状。こちらが判断するための客観的な「根拠」を中学校側から示してもらう必要がある。また、スケジュールが一般の高校受験と全く違う点も大きな課題で、6月や7月に進路相談を受けないと受験自体ができないが、この時間的なズレや手続きが十分に浸透していない。周知してもらう努力はしているが、中学校側へ情報を浸透させるのは非常に難しいのが現状。年度初めに中学校を回るなど丁寧な情報伝達を模索している。

⑧併設校、地域との共生・共育の推進

委員：高校との交流授業の実施をぜひ進めてほしい。障害者が就労先と一緒に働くスタッフに理解され就労を継続させるためには、高校生に障害者への理解と支え合う意識を育てる必要がある。

⑨充実した業務ができる職場環境の構築

委員：小中学校でも話題になったが、なぜ学校はWindowsではなくChromebookなのか。Windowsのパソコンがあって慣れている子も多いのに。先生方も使いづらいのではないかな。

委員：安価であることが理由だろうが、今はグーグルの利用が増えている。

学校：小中学校は学校から貸出のだが、高校や特別支援学校の高等部の場合は「BYOD (Bring Your Own Device)」とあって、基本的には自分で端末を購入して用意してもらう形になる。

学校：本校では、これまでBYODの希望がなかったため学校配備のタブレットを使ってきたが、今後は現在配備されているものも、修理や更新などが学校ではできなくなるため、積極的にBYODを案内していく予定。推奨品は案内するが、統一はしない。教員のICT活用力の向上を図る必要性がより高まっている。

⑩不祥事根絶

学校：事故や不祥事がなくよかった。職員の研修等引き続き行っていく。

委員：生徒たちのスマートフォンの使い方の指針について、学校ではどこまで対応しているか。SNS上でのトラブルへの対応などはどうなっているか。

学校：基本的には生徒指導の案件として扱っている。ルールとしては、「校内では使用しない」保護者の責任と管理のもとで行うのが原則。放課後の友人同士のやり取りが原因でトラブルが起きた際は、たとえ学校外の出来事であっても、学校として聞き取りを行い、解決に向けた対応をしている。

学校：指導計画の中に、人権教育の一環として「SNSの安全な仕様」や「自分を守る・加害者にならないためのマナー」を組み込んでいる。また、学校だけでなく保護者の方にも一緒に考えてもらう必要があると感じており、保護者向けの啓発も検討している。また具体的に学ぶ場を作ろうと来年に向けて検討している。

委員：18歳以上となると成人としてカードも作れるので支払いトラブルも発生する。これについても学習会の必要性がある。

(4) 校内参観（作業学習の参観を20分程度行った）

(5) その他

- ・学校運営協議会委員の任期は1年。委員の皆様には今年、多くの参考となる御意見をいただきありがとうございました。来年度の学校経営計画のテーマに合った委員の方には2月中に、また来年度の委員のご依頼の御連絡をさせていただく。